



村上市岩船郡医師会の近況

村上市岩船郡医師会

会長 伊 賀 芳 朗



村上市岩船郡医師会は昭和22（1947）年の創立ですので、今年79周年を迎えます。現在60名の会員（A 会員28名、B 1 会員（施設代表）4 名、B 2 会員（勤務医）22名、免除会員6 名）によって地域の医療を担い、保険事業を運営しています。会員数の減少と高齢化が課題ですが、引退された先生方は講演会や健診事業に積極的に参加しておられますし、一昨々年と一昨年3 人の若い先生が開業されて、日々の診療のかたわら在宅医療や住民教育等、地域医療の発展に取り組んでおられます。

管内（村上市、関川村、栗島浦村）の医療提供体制は、2025年を見据えた「地域医療構想」により様変わりしました。下越地域医療構想調整会議で協議が重ねられ、2026年4 月現在、村上総合病院の病床は263（急性期203、回復期60）床から199（急性期150、回復期49）床へ、県立坂町病院は148（急性期97、回復期51）床から99（急性期51、回復期48）床へ変更となり、管内の中核2 病院合わせて113床（急性期99、回復期14）が減床となりました。肴町病院、村上記念病院、山北特新会病院、厚生連瀬波病院は、それぞれ介護医療院に転換あるいは併設することとなり、医療から介護へと役割を一部移行する体制になりました。基幹病院への集約化も進み、村上総合病院の外科は1 人体制となり、県立坂町病院の外科は廃止となりました。また、村上市と医師会で運営する急患診療所は、平日夜間の患者数がここ数年1 日平均1 人未満と減少していることもあり、4 月から平日夜間診療の事業を村上総合病院へ移行しました。

在宅医療では、村上総合病院は200床未満になったことで「在宅医療療養支援病院」として、県立坂町病院とともに在宅患者に対する緊急時の入院

対応など、地域密着型サービスを担うことになります。在宅医療の成否に係る「看取り」について、新潟県のホームページで管内の死亡数と死亡場所の推移を見ますと、2011年の全死亡数は1,098人で、14年後の昨年2025年は1,202人に増加し、死亡場所では2011年の病院死は全体の81.1%を占めていましたが、2025年は65.6%と減少し、全国平均の64.4%（2023年）に近づいています。自宅死は2011年11.1%、2025年10.1%と横ばいですが、施設死は2011年5.6%、2025年22.0%と増加しています。多死社会を反映して管内の死亡数は増加し、自宅死は変わらず病院死から施設死への移行が進んでいます。

先日開催された「第1 回下越地域医療構想調整会議」において、県福祉保健部より下越圏域の現状と将来推計について説明がありました。その中で、管内の人口は、2025年から2040年までの15年間で15,072人減少する一方、85歳以上の人口は同じ期間で579人増加し、2040年頃にピークを迎えると推計されています。また下越医療圏について、外来患者数や入院患者数は減少が続く反面、85歳以上の高齢者は、外来・入院とも増加（5～8%）すると推計されています。

管内の医療提供体制が縮小する中、85歳以上の人口増加によって、誤嚥性肺炎や転倒によるけが、慢性心不全、フレイル等の疾患が増えることが見込まれるため、病院での長期入院抑止の受け皿としても、在宅や施設医療の拡大と病院外での看取りの増加が必要となります。在宅医の少ない管内では、看取り可能な施設を増やしていくことも重要で、そのためには、やはり多職種の連携とACP（人生会議）の理解と普及が必須と考えます。